

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 86 号	氏名	松隈 誠司
学位審査委員	主査	矢野 捷介	
	副査	相川 忠臣	
	副査	澄川 耕二	
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価 本研究は、自己心膜を用いた僧帽弁後尖弁輪形成術の遠隔期における僧帽弁閉鎖不全再発制御の成績を明らかにしようとするもので目的は十分妥当である。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価 僧帽弁後尖単独逸脱で自己心膜後尖弁輪形成術を施行した臨床例を長期間観察し、遠隔期の僧帽弁閉鎖不全再発に関して心エコーによる評価を行うものであり、研究方法も妥当である。</p>			
<p>3. 解析・考察の評価 上記方法で解析した結果、自己心膜を用いた僧帽弁後尖弁輪形成術施行例では遠隔期の僧帽弁閉鎖不全再発および合併症が少なく、術前に高度の左房拡大や高左室短径短縮率を認めた例では軽度逆流を起こす可能性があることを明らかにし、今後の僧帽弁形成術の術式開発が大いに進展することが期待される。</p>			
<p>以上のように、本論文は僧帽弁形成術の術式に関する研究の発展に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			